

* 日本最初の電波望遠鏡の写真を発見

2007年8月1日、国立天文台 アストロ・トピックス (317) で「国立天文台最古の電波望遠鏡を復元」というニュースが配信されている。これは国立天文台野辺山観測所の御子柴氏らが東京天文台で最初に作られた 200 メガヘルツ (波長 1.5 メートル) 電波望遠鏡を復元したというニュースであった。御子柴氏は 2005 年から準備を始めて 2 年余の歳月を費やして野辺山構内に外観を復元した。この電波望遠鏡は、日本の電波天文学の祖ともいべき、故畑中武夫 (はたなかたけお) 教授が中心となって 1949 年 (昭和 24 年) に製作したもので、写真 1 で見るとこのアンテナの背景に 65cm 望遠鏡のドームがあり、その手前に木造の研究室が見えているから、三鷹キャンパスで太陽電波グループの本拠だった場所のようだ。現在国立天文台三鷹キャンパスの情報総合棟が建っている場所、当時は木造本館 (Ⅱ) と呼ばれた分光部の建物の南側にもこのような電波望遠鏡の残骸が立っていたのを覚えている。この電波望遠鏡の図が昭和 26 年に東京天文台職員組合が発行した「見学の葉」に掲載されていた (図 1) という記事をアーカイブ室新聞 123 号に書いた。

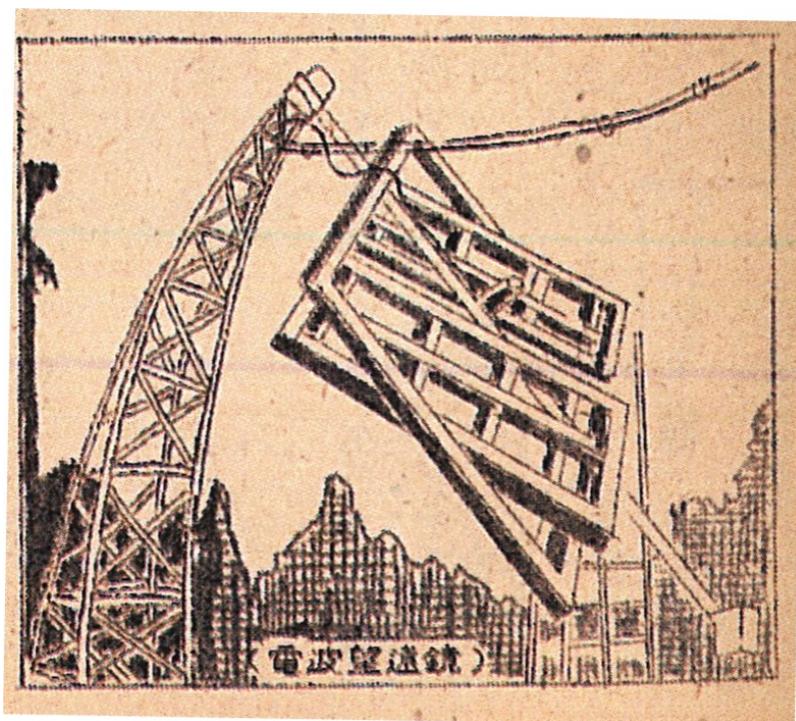


図1 初期の電波望遠鏡

この電波望遠鏡は日本の電波天文学の礎となった記念すべきもので、図 1 のようにパラボラアンテナとは異なり、縦 2.5 メートル、横 5 メートルの木製の枠に、金属棒を固定してアンテナにしていた。また、戦後間もない時期であったため、架台には戦前 (1936 年) の

日食観測に使用された光学望遠鏡の赤道儀を流用していた。復元された電波望遠鏡に使っている 2 台の鉄塔と巨大な軸はその赤道儀である。それ以外の部分については、残されていた数枚の写真を手がかりに新たに製作した。この復元した電波望遠鏡は野辺山の見学コース内に設置されている。

この電波望遠鏡の写真が、天文月報 1949 年 6 月号に掲載（写真 1）されているのを見つけた。

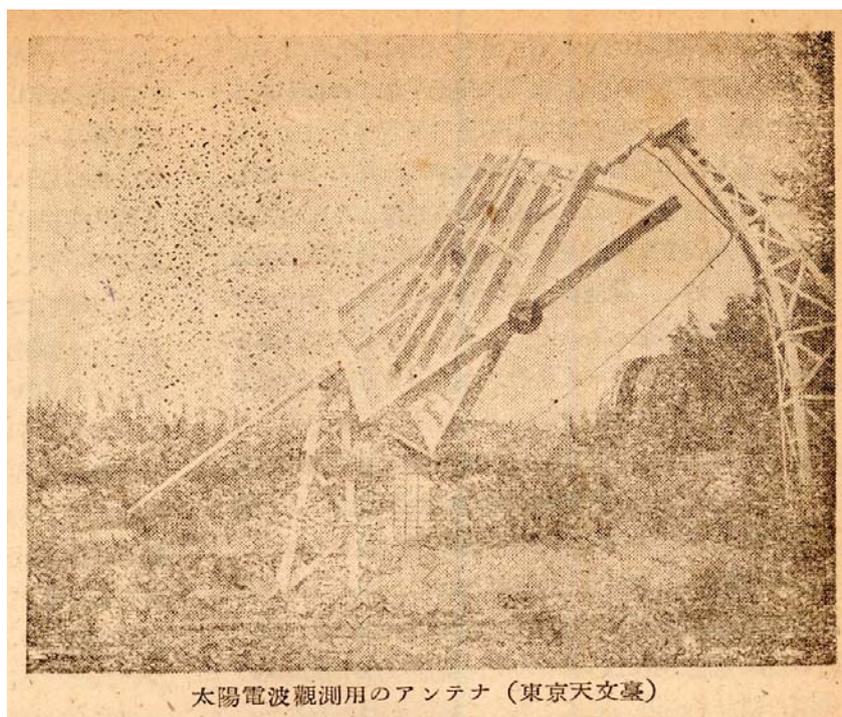


写真 1 天文月報 1949 年 6 月号に掲載されたもの

東京天文台で太陽電波グループが 10m パラボラアンテナで観測していた頃の写真 2 も懐かしい光景である。



写真 2 10m パラボラアンテナを中心とした電波グループの本拠